

荻窪病院だより

かんたん 嵌頓を起すすと命の危険もある鼠径ヘルニア 当院では傷が一つの「単孔式腹腔鏡手術」が可能です

高齢の男性に多く、外科手術で最も件数が多い鼠径ヘルニアについて、今年4月に着任した
亀山外科部長が解説します。

ヘルニアとは 「飛び出す」と

鼠径ヘルニアとは、鼠径部（足の付け根）にできるヘルニアのことであり、ヘルニアとは、元来あるべきものが飛び出してくることです。おなかの中にある腸や脂肪などが腹壁（筋肉でできている壁）にできた欠損部（弱くなったところ）から出てきてしまう症状で、昔から「脱腸」と言われています。

症状は、鼠径部の膨らみ、それに伴う違和感や不快感などが主なものです。

基本的には強い痛みを感じることがありません。また腹圧が高くなる時、いわゆる立った状態やおなかに力を入れる時に膨らみが目立ち、仰向けになると膨らみがなくなってしまうことが一般的です。

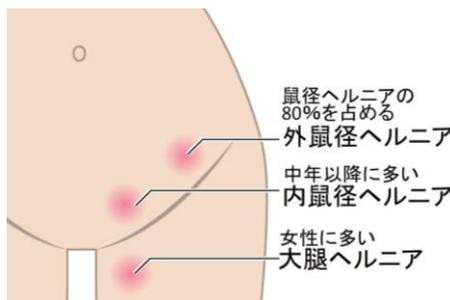


外科・消化器外科部長
亀山 哲章 かめやま のりあき

93年慶應義塾大学卒業 日本外科学会外科専門医・指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医・評議員 日本ヘルニア学会評議員
趣味はゴルフ。好きな食べ物はとんかつ

立ち仕事や腹圧がかかりやすい肉体労働、運動などをしている人、便秘症の人、肥満の人、咳をよくする人、妊婦さんは鼠径ヘルニアになりやすいとされていますが、正確なデータはありません。

鼠径ヘルニアの診断は、問診と視触診で可能なことが多く、特に腹圧をかけた状態、立ち上がった状態での視触診は有用と考えます。場合によっては、CTや超音波検査を追加することもあります。



鼠径ヘルニアの種類

強い痛みがあり 戻らない場合は 嵌頓かも

痛みが強く感じられる時は、腹壁の外へ飛び出したものが、仰向けになっても戻らない嵌頓（かんどん）という状態が考えられます。多くの場合で硬くなっており、膨らんでいる部分を触ると痛みが強くなる事が多いです。

もし飛び出しているものが腸であった場合、放置しておくことで5〜6時間経過後に壊死が始まると言われ、場合によっては死亡することもあるため、嵌頓した場合は、たとえそれが夜中であってもすぐに病院へ行く必要があります。緊急手術になるかどうかは状況次第ですが、ほぼ緊急入院となります。

このように、ある日嵌頓を起し緊急手術になる可能性は鼠径ヘルニア患者さん全体の2〜5%とされており、嵌頓を防ぐための治療がすすめられます。

理念

患者さんへ 安心して信頼される医療を提供します。
職員へ やり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。

基本方針

1. 急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
2. 個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
3. 豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
4. 経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。

治療法は
手術のみ

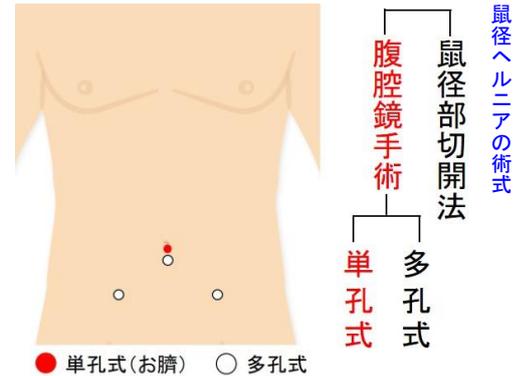
鼠径ヘルニアの治療としては、現在のところ外科手術のみです。これは鼠径ヘルニアが構造的な変化に伴い症状を出しているためであり、自然に治ることはなく、また薬で治すこともできないからです。

30代以降の成人の場合、腹壁の欠損部をメッシュ（人工物）で補強する手術が主流となっており、術式としては鼠径部を5〜8 cm 皮膚を切つて行う鼠径部切開法、腹腔鏡手術があります。

当院での過去5年の鼠径へ



単孔式腹腔鏡下手術の様子。お臍1か所に機器を挿入する



ルニア手術は年間130〜160件であり、70代が一番多く、続いて60代、80代となっています。20年までは腹腔鏡手術の割合は10%前後でしたが、21年には20%を超えました。亀山が赴任した23年4月以降はさらに積極的に腹腔鏡手術で行っており、その8割以上を**単孔式腹腔鏡手術**で行っています。

単孔式腹腔鏡手術はお臍の下に1.0〜1.5 cm程度の傷ひとつで行う術式であり、術後の創部が目立ちにくく、ほとんど分からなくなる場合もあり、整容性に優れた方法です。

単孔式腹腔鏡下手術のお臍の傷の変化



また腹腔鏡手術の場合、術後3時間後より離床（歩くこと）可能であり、身体へのダメージが少ない手術方法と考えます。

足の付け根（鼠径部）に違和感や痛みを感じたり、出っ張ってきたかもしれないと思ったり鼠径ヘルニアの可能性があらありますので、外科外来にてお待ちしております。

副院長交替のご挨拶

河野前副院長の退職に伴い、6/1に小粥整形外科部長が新副院長に就任しました



25年間にわたりお世話になった荻窪病院をこの度退職することになりました。整形外科部長、副院長を長期間にわたり務めさせていただきましが、臨床面ではほぼ一貫して脊椎外科の診療にあたってまいりました。

数多くの患者さんに接し、治療させていただき、私も苦勞しながら勉強させられたことも多くありました。またたくさんの患者さんをご紹介いただいた近隣の先生方には心から感謝申し上げます。杉並区医師会整形外科医会の会長を務めさせていただいたのもよい経験になりました。

今後は他の病院に勤務することになりますが、これまで支えていただいた皆様から感謝申し上げますとともに荻窪病院の今後の発展をお祈り申し上げます。

小粥博樹

新副院長より



こんにちは。小粥（おかい）です。私の名前は、徳川家康が三方ヶ原の戦いで武田信玄に大敗し、命からがら逃げ途中に立ち寄った農家で「お粥」をふるまわれた古事に由来します。背骨にまつわる病気を専門に診療しています。

地域の皆さんから「荻窪病院があるので病気で困ったときにも安心！」と思ってもらえるように、またいざ病気になるに、「荻窪病院で治療を受けて良かった！」と心から実感していただけるように、安心安全で質の高い、かつ時代のニーズに即した急性期医療を提供することに尽力していきたいと思えます。

